

まち

No.12 2019年 春号

発行日：平成31年3月22日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務室)
発行責任者：岡田智秀(教室主任)
編集担当：小木曾 裕、西山孝樹
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちの見方・楽しみ方【東京編】	2
1カ月の海外研修に行って	9
平成30年度 卒業生の就職活動状況	10
平成30年度 まちづくり工学科研究業績	11
平成30年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー	14
平成30年度 まちづくり工学科各賞受賞者	15
お知らせ	15
教室主任退任挨拶	15
教職員・学生の活躍	16

巻頭言

教室主任就任挨拶

教授 岡田智秀



このたび、まちづくり工学科教室主任に就任いたしました岡田智秀です。皆様から寄せられた期待と信頼に応えるべく、学科運営に最大の努力をもって尽力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、まちづくり工学科は2013（平成25）年に創設され、本学理工学部では実に35年ぶりに誕生した新学科となります。当学科の初代教室主任はその創設に尽力された横内憲久先生であり、私を含む当時の設立スタッフとともに、新学科という白地のキャンパスに当学科の個性あふれる輪郭（学科運営の枠組み）をデザインしました。カリキュラム体系のほか、学生就職支援（学科独自の企業セミナー、公務員講座）、学生の社会的実践力を養う資格取得講座（技術士補、宅地建物取引士）の開設、適切な学科情報を周知する広報活動などが挙げられます。そしてこれら一連の活動を軌道に乗せ、推進を図るべく第二代教室主任として尽力されたのが八藤後猛先生です。こうした諸活動の成果も見え始めており、就職内定率はほぼ100%にのぼり、職業分野としては最多の公務員とともに、建設・不動産関連で全体の7割を占める現状です。在学生の技術士補や宅建士の合格者も増加傾向にあります。当学科に対する入学志願者数も安定傾向にあります。こうした一連の成果は、当学科運営に取り組んできた学科教職員や関係する皆様の協力なくして語ることはできません。あらためてご関係の皆様には心より御礼申し上げる次第です。

ここで、第三代教室主任として学科運営で注力したい三事項を挙げさせていただきます。

まず、第一に「ワンストップチェック」です。一般的に、組織運営が軌道に乗り始めると個々の工夫が慣例化してマンネリ化や硬直化を生み出す危険をはらみます。時代は刻々と変化する中で、学科運営のこれまでの取り組みを今一度点検

し、より良い方向へと改良・転換する姿勢を持ちたいと思います。第二に「学生ファーストと若手人材育成」です。社会の価値観の多様化とともに学生の価値観や生活環境も多様化しています。このため、学生個々の話に十分に耳を傾け、学生個々の価値観に即したきめ細かい教育・研究指導を共有してまいります。また、若手教員が有意義に学科運営に取り組めるよう、業務バランスに配慮して研究実績向上を促すよう心がけてまいります。当学科のバロメーターは学生の笑顔と若手教員のバイタリティーという認識のもと、それらにあふれる学科をめざします。第三に「学生の入口・出口・そのプロセスの充実化」です。学生の入口部分の対応として適切な理解と入学意欲を高める広報活動、学生の出口部分としては就職活動のモチベーション向上策と就職内定率維持、そして卒業までのプロセスとして、自ら課題を見つけ課題解決の道筋がつけられる自主創造力、当学科への母校愛・帰属意識の向上などに取り組んでまいります。

まちづくり工学科は2018（平成30）年9月より、御茶ノ水エリアの新たなカオとして誕生した新校舎「タワー・スコラ」を学び舎とし、「平成」に代わる新元号が幕開けする本年、大学院まちづくり工学専攻博士課程がスタートします。また、日本大学は今年130周年、理工学部は東京五輪が開催される2020年に創設100周年を迎えます。こうした大きな節目をはずみとして、当学科は2023年の10周年に向けて教職員とともに在学生・卒業生たちが一致団結し、「まちづくり工学科」が理工学部のニューブランドとして輝き続けるよう日々精進してまいります。

皆様方には、引き続きまして当学科のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

まちの 見方・ 楽しみ方

「まち」の構成要素はさまざまに多岐にわたります。専門家はいったい「まち」をどのように見ているのでしょうか。

まちづくり工学科は、各教員の専門分野の幅広さも特徴のひとつです。専門分野が異なると「まち」の見方や楽しみ方は異なるのでしょうか。

市販のガイドブックとは一味違う、まちづくり工学科教員ならではの「まちの見方・楽しみ方」を教えます。

谷根千エリアでリノベーション建築巡り

まるで時が止まったかのような昔懐かしい民家の内部を見てみると、現代的な洒落たカフェだったという経験があるだろう。このような古き良き面影を残しながら改修によって生まれ変わったリノベーション建築は、最近街でよく目にするようになった。今回紹介する、台東区の谷中・根津・千駄木等、通称「谷根千」エリアは、リノベーション建築の宝庫であり、しかもそれらが複数集積していることで、かつての寺町から観光地へと街自体の機能更新が進む、都内特有のエリアである。

例えば、谷中にある「hanare」は、空き家となっていた築約50年のアパートを宿泊所にリノベーションし、銭湯や飲食店など街の既存資源と組み合わせ、街全体を

ひとつのホテルに見立てたユニークな取り組みである。ホテルのレセプションは運営拠点「HAGISO」(写真1)にあり、そこで鍵を受け取り100mほど離れた宿泊棟の客室へ(写真2)。温泉チケットが宿泊代に含まれていて、地域の銭湯が大浴場となったり、地元の職人から伝統文化を学べたり、夜は居酒屋で地元住民と語らうなど、そんな観光の新しい形がこのエリアに存在する。

ほかには、昭和初期に建てられた三軒の古民家を、ピアホールや手作りパン、塩とオリーブオイルのお店のほか、シェアオフィスなどからなる複合施設によりみがえった「上野桜木あたり」(写真3)が著名。特徴は、3軒をつなぐ路地と庭が街に開放され

ている点であり、通り行く人々がふらっと入りやすい空間づくりがなされている。また、路地と1棟の座敷が地域に貸し出されていて、マルシェや文化体験教室などさまざまなイベントが展開されている。塀で囲われた住宅から商業施設へと一変した、リノベーションならではの空間体験ができる。

このように、リノベーション建築を巡り、その地の歴史を肌で感じながら、新しい観光体験や空間体験をしてみるのはいかがだろう。あなたなりのリノベーション建築の楽しみ方を見つけてみてください。



落合正行 助手(岡田研究室)
専門 | 建築計画・建築設計、コミュニケーションデザイン



写真1



写真2



写真3

写真1 HAGISO (台東区谷中三丁目): 「hanare」のレセプションやショップのほか、カフェ、ギャラリー、設計事務所等が入る、築60年の木造賃貸アパートを改修した複合施設。設計者であり「HAGISO」や「hanare」を運営する宮崎晃吉氏が、2012年に主催した展覧会がきっかけとなり、解体寸前の建物の価値が見直され、リノベーションに至った。**写真2** hanare (台東区谷中三丁目): 5つの個室とシャワールーム、洗面所からなる。宿泊代には朝食や銭湯チケット、アメニティー重箱、オリジナルマップなどが含まれており、オプションでレンタルサイクルや人力車、着物の着付けなども体験できる。なお、一連の取り組みは2018年のグッドデザイン賞金賞を受賞している。**写真3** 上野桜木あたり (台東区上野桜木二丁目): 1938年に建てられた三軒家は、いずれも漆喰塗りの洋室と和室の座敷と専用庭がついた戸建住宅。所有者は建て替えや駐車場などを検討していたが、2012年頃NPOという歴史都市研究会をはじめ多くの人々との連携により再生プロジェクトを立ち上げ、2015年にオープンした。

幾重にも記憶に重なる銀座

銀座通りは明治初期に、横浜の日本大通りとともに整備された総幅員15間、両側に3.5間ずつの歩道を持ち、石造の建築が立ち並ぶわが国最初の近代街路である。街路と建築が一体に設計された、わが国では稀有の街路であり、設計者はお雇い外国人のイギリス人技術者、T.J. ウォートルスである。当初からガス燈の照明を持ち、松、桜、楓の街路樹が植えられていた。街路樹は明治の間にすべて柳に植え替えられ、昭和42年に抜去されるまで、「銀座の柳」として親しまれていた。初めから、わが国有数の繁華街であり、現在も明治からの老舗から、最近のブランド店まで立ち並んでいる。まさに、明治以降の歴史が重なっている街路である。加えて、銀座通りは、約40年前筆者が修士論文の対象とした地でもあり、個人の記憶も重なっている。

さて、銀座通りを散歩してみようではないか。そういえば、銀座線はわが国初の地下鉄だったと考えながら、地下鉄銀座線銀座駅を下り、銀座4丁目交差点に出る。地下鉄出入り口を見ながら、銀座駅が開業したのが昭和9年、その当時は歩道幅員が3間になっていた時代で、そのため出入り口と歩道端の間が3尺あいているんだなどと普通の人が目もくれない部分が気になる。銀座通りの舗装は御影石。これは都電が撤去された昭和42年に都電の敷石を転用したものだ。費用は、当時の建設省と銀座の商店街の折半だった。商店街も銀座の景観づくりに一役買っていたのだと感じる。その時の建設省との約束で銀座では交差点以外で歩道が切り下げられていない。歩道端が切り下げによって波打つことなくすっきりとした景観となっている。都電撤去と同時に「銀座の柳」が無くなったことは銀座にとって残念なことであったが、良いこともあったと感じる。まずは、「鳩居堂」に立ち寄ってみよう。「鳩居堂」は、天皇陛下が京都から東京にお移りになったとき京都から銀座に移ってきた店で、本店は京都寺町。歴史ある文房具を見ると、現代のものも見たくなる。2丁目の「伊東屋」に移動しよう。万年筆も魅力的だが、今日は付箋紙くらいにしておこうか。2丁目から8丁目に向かって歩く。4



銀座4丁目交差点風景。右側に三越、左側に和光が見える。三越は昭和5年から和光は昭和7年からこの地に立っている。和光（セイコー、服部時計店）は明治27年にこの地に時計塔を備えて立地して以来、銀座の時を刻んでいる。写真では歩行者天国の様子がみられるが、歩行者天国という施策も昭和45年に東京都内で初めて銀座（新宿、池袋、浅草と同時）で行われた。

丁目来到ると、決して購入するわけではないが「田屋」に寄る。ワイシャツもネクタイも魅力的。対岸の「和光」。明治半ばに服部時計店が開業し、現在の建築は昭和7年のもの。角のショーウィンドーに商業広告は出したことがないと思う。何でも経済効果という昨今、銀座の中央でわが国の繁華街を担う店舗として一流の心構えではないか。さて、昼ご飯はどうしよう。いろいろ迷うが、8丁目の「天国」でお昼の天井といこうか。まちを楽しむには、食も重要。向かいの「博物館」も「三越」などと同じデパート（百貨店）だったわけで、大正の頃は飲工場といって、確か田山花袋の『蒲団』にも出てきたっけ、などと思いながら、ゆっくりと天井に舌鼓をうった後、またまち歩き。お土産を買わねば。7丁目の「虎屋」に行き、羊羹の「夜の梅」を購入。家に帰ってから妻とともに渋いお茶でいただくか。「天国」と同じ8丁目の「カフェパウリスタ」。多くの文人たちが集った明治期からのカフェでコーヒーを飲みたくなるが、ちょっと我慢して6丁目の「菊水」に寄り、パイプを拝見。良いバ

イプがあるが、とても手が出ない。少し画廊でも見ようか。銀座には大小さまざまな画廊がある。ちょっと休憩には最適。4丁目に戻り三越の屋上に行き銀座出世地蔵尊と三囲神社でもお参りしてから、3時のおやつ時間だ。明治期からの「銀座木村屋」2階の喫茶であんぱんセットでもいただこうか。西洋のパンに日本の餡子を入れるこんな菓子パンを木村屋さんもよく思いついたと考えながら、あんぱんを食べているうちに夕刻にさしかかる。暗くなると、裏通りのバー（若い女性のいる店ではない、渋くて、おいしいハイボールが飲めるバーもあるのだ）に行きたくないので、そろそろ引き上げるとしよう。

まちを楽しむには、歴史を知ることが重要だと思う。楽しみの深さが何倍にもなる。読者諸氏もまちを訪ねるときは、そのまちの歴史を調べ、先人たちがどのように楽しんでいたかを知っていくことを勧める。



天野光一 教授(天野・西山研究室)
専門 | 景観・デザイン論、観光計画論



1 現在の緑豊かなケヤキ並木です。両側の歩道は5.5mあり、樹木と車道と歩道のバランスが良く素晴らしい日本を代表する、模範となる並木で表参道の最も重要な要素です。2 「明治神宮内苑」の森は1920年に荒地に造営された人の作った森で、50・100・150年の自然の遷移を計画的に考え成長させています。一方表参道のケヤキは1921年に植栽し、戦災で焼失後、1948年に新たに植栽され、丁寧な維持管理を経ながら現在に至っています。それぞれの緑は一体となり重要な地域資産となっています。3 表参道を通る旧渋谷川付近にあった水車。出典：穂田乃水車：富嶽三十六景、葛飾北斎（文化庁オンライン）4 明治神宮御造営時の表参道の景観。出典：帝国軍人教育会編「明治神宮御写真帖附御造営記録」帝国軍人教育会出版部（1920）5 1952年の表参道。戦災で焼けた後、新たに春日氏と加勢氏で植えられたケヤキと表参道。6 1952～1953年頃の広々とした表参道。ワシントンハイツの米軍家族を対象としたショップが登場してくる。（5・6の写真提供：原宿表参道櫛会）



表参道は風致地区第一号 「明治神宮内・外苑」の一部でした



小木曾 裕 教授（小木曾・山崎研究室）
専門 | まちづくり、都市計画、
緑地計画

1. 表参道の歴史とまちの変化

昔は表参道のある原宿は2つの大地に挟まれ、低地は渋谷川の水田が広がり、川に穏やかに下る斜面には、大名屋敷が広がっていました。この原風景の要素は渋谷川という川であり、東京オリンピックで暗渠化されましたが、明治中期までは葛飾北斎の「穂田乃水車」に描かれているような牧歌的風景が広がっていました。現在の表参道は一度下がりますが、分岐点に暗渠化された渋谷川の痕跡があります。

表参道は明治神宮造営時にできた参道で沿道は屋敷の石垣が連なり、両側の宅地割が大きく、当初の緑の多いゆったりした土地利用に特徴があります。昭和初年建設の同潤会青山アパートのモダンな景観も加わり、緑溢れ洗練された文化的イメージの高い商業ゾーンとなっていました。現在の代々木公園の場所は戦後、米軍に接収されワシントンハイツができ米軍の家族が表参道を訪れ、国際的な雰囲気が醸成されていきます。1960年頃からファッションタウンに進化してきましたが、この中で都市計画制度として2002年には表参道地区計画

を定め、表参道のケヤキ並木と相まって日本を代表する商業地として発展してきた表参道沿道の良い景観と都市環境の維持増進を図っています。さらに魅力あるまちなみの形成を一つの目標としていて、建築物等の最高限度を30mとして景観に配慮をしています。また、地元商店会「原宿表参道櫛会」はこの表参道の商店街について現在まで生活環境の向上と商業の健全なる発展を目指し、多くの活動や企画に取り組んでいます。環境改善のために街路修景事業や美化推進などイベント等も行い、地元町内会とも連携をはかれています。

2. 風致地区制度と表参道

「風致地区」制度は1919年に制定された旧都市計画法の中で創設されました。1926年わが国初の風致地区として「明治神宮内外苑風致地区」が指定されました。指定地区は表参道、内外苑連絡道路等でした。指定の意図は、明治神宮崇敬にふさわしい沿道の環境を維持するためにとされています。1946年に東京都風致地区規定が施行され、1951年には神宮外苑地区が風致地区に指定され、その後明治神宮内苑

や、外苑に隣接するエリアも含まれ、表参道等の指定範囲も広がり、「明治神宮内外苑付近風致地区」と改められます。その後1971年には表参道と裏参道が法制度の改定や土地利用状況の変化を踏まえ廃止されます。

3. 表参道のケヤキの美学

ケヤキ並木は明治神宮内苑の完成した翌年1921年に201本植えられ、1930年代には7～8mになりましたが、1945年5月26日の山手大空襲で表参道は火の海と化し13本を残すすべて燃えて尽きてしまいます。この無残なケヤキ並木の姿を、終戦で春日造園に復帰した加勢俊雄氏（加勢造園先代社長）は目の当たりにしました。「われわれは、先祖代々造園で飯を食べてもらっているんだ。ここの一番並木を寄付で復活しよう」と叔父の春日時太郎氏（春日造園社長）と役所に出向き1948年、1949年に150本以上（幹回り1尺）を植えるという美学が表参道のケヤキ並木をよみがえらせます。2006年には24mにも成長したものもあり、現在158本の素晴らしい並木となっています。

故郷にしたいまち 神楽坂

ニュートウン育ちの私は、実感として故郷の温もりを知らない。だから、まちを見るときはいつも、そこを故郷にする人々が、どのような暮らしを営み、故郷にどんな思いを抱いているのか想像を巡らせる。自分が住むまちを選ぶ際にも、そこを自分の故郷と呼びたいかを考える。そんな私が今住んでいるのが神楽坂である。神楽坂の魅力を一言でいえば、“過ごし方を限定しないまち”といえよう。ここが故郷だったら……そう考えながら神楽坂を歩けば、自ずとその魅力を理解できるだろう。



休日の神楽坂通り商店街



阿部貴弘 教授(歴史まちづくり研究室)
専門 | 都市史、地域計画

柴又帝釈天

柴又帝釈天には多くの参詣者と来訪者が訪れる。昭和の雰囲気、街並みだけではない。老若男女の賑わいや活気、食べ歩き、懐かしい品ぞろえ、売り子さんの衣装・向上などがつながり合って、頑固にフーテンの寅さんの世界、懐かしい昭和の世界を語り掛ける。柴又の魅力は、景観だけにあるのではない。それらの要素がつながり文脈となって独自の世界をつくり上げていることにある。そこでの体験や想いで、楽しい時間の中にこそその魅力の核心があるのだ。



柴又帝釈天参道の街並み



高村義晴 教授(高村研究室)
専門 | まちづくり、都市開発、都市再生／地域創生、地域政策

ひとからまちを見て

かつて、仕事や個人的な興味によって日本中のいろいろなまちを訪れました。その理由のひとつは、福祉工学の成果はいつかはまちに還元される、などという高尚な思いもあったのですが、単にまちが好きだったということにつきるようです。そして、まちを見ているようで「そのまちにいるひと」を見ていることに気が付きました。「そのまちだからこそ、ひとたち」がいて、生活しているからこそ、そのまちがより一層好きになります。



何気ない商店街が好きです。



依田光正 教授(依田研究室)
専門 | 福祉工学

日本は本当におもてなしの国か？

オリンピック招致活動を契機に日本の「おもてなしの国」がクローズアップされている。果たして本当にそうだろうか。混雑した電車内でスマホを操作するためバックパックを背負ったままで周囲のことは考えていない等々日常的によく見られる光景になった。このようなことが老若男女問わず起きている。日本では伝統的に人に迷惑をかけないなど人とのかわわりを大切にしてきた。伝統・文化は時間をかけて育てられるが、壊れるときは一瞬である。まちは人である、ひとが変わればまちはかわる。まちの変化はひとの観察から始まる。



「車内でのリュックサックの置き方・持ち方」キャンペーンポスター (JR西日本WEBサイト <https://www.westjr.co.jp/company/action/service/voice/2018/0201.html> より)



城内 博 特任教授(人間工学研究室)
専門 | 安全工学、産業保健

天王洲運河のフローティングレストラン 「T.Y.HARBOR River Lounge」

まち科教員（横内・岡田）が制作に参画した都内初のフローティングレストラン（旧名「ウォーターライン」）。船か建築物かで揺れた適用法制度に合理的な道筋をつけたほか、水面にかかる複雑な法制度を個々にひもときながら苦労を重ねてようやく実現したプロジェクトである。この事例が契機となり、都が牽引する運河ルネサンスが都内の水辺（運河）に広がっていった。海拔0メートルから見上げる東京夜景はこの場所でしか味わえない魅力。陸上部分の倉庫をリノベーションした地ビールレストランも格別の風景とメニューが用意されている。



東京の奥座敷として必見の魅力スポット



岡田智秀 教授（岡田研究室）
専門 | 景観まちづくり

神田明神（神田神社）

神社建築の中には、その伝統的な外観様式から、一見木造建築とってしまうものも多い。関東大震災復興期の東京では、社寺においても、伝統構法による木造から耐火・耐震性を重視した非木造構造へと移行し始めた。その先駆的事例が神田明神であり、神社建築としてはSRC造が採用された最初期のものである。現在では、法律上の制約もあり、市街地においてRC・SRC造で建て替えられた社寺が多く見られる。社寺の歴史性を継承していくための“伝統的な建築様式と近代技術の融合”に目を向けてみるのも意義のあることと思う。



現在の神田明神の社殿



荒巻卓見 助手（仲村研究室）
専門 | 建設材料施工、コンクリート工学

新宿駅周辺エリア

東口側の歌舞伎町やゴールデン街、南口側の新宿御苑、西口近くの雑多なビルや副都心等、駅を中心に各方向でまちの表情が異なる。紀伊國屋新宿本店（前川國男）、旧・四谷第五小学校（グロピウスが提唱したインターナショナル・スタイル）、東京都庁舎（丹下健三）等の建築物や、総合設計制度（建築基準法）や特定街区（都市計画法）に基づいて設けられた広場や通路も多く、多様な建築空間や都市空間を体験できる。



新宿駅西口付近の街並み



山崎 晋 助教（小木曾・山崎研究室）
専門 | 建築計画・都市計画

上野恩恵公園周辺で 有名建築と緑を感じるまち散策

上野駅公園口を降り、上野恩賜公園入口すぐ見えてくるのが前川國男設計の東京文化会館。近くにはル・コルビュジェ設計の国立西洋美術館、少し歩くと安藤忠雄改修設計の国際子ども図書館などたくさんの有名建築があります。上野恩賜公園内にあるコーヒーショップでコーヒーを購入し、コーヒー片手に上野恩賜公園内、そして周辺を散策し、最後にジョサイア・コンドル設計の旧岩崎庭園を見学しに行きます。緑あふれる景色と有名建築を見学しながら過ごす、少し贅沢な一日になります。



上野恩賜公園を抜け国際子ども図書館へ歩く



牟田聡子 助手（八藤後研究室）
専門 | 福祉社会と生活環境、事故予防と安全計画、建築人間工学

だれもが知っていてだれもが知らない、 変貌を続けるまち「秋葉原」

100年前は原っぱであった地が、青果市場とともに交通の要衝となり、戦後は理工系専門学校があったことから、電気のまちとして発展した。しかし「電気のまち秋葉原」の歴史は100年史のうち、たかだか20年程度。その後はアニメ、アイドル、メイド喫茶等サブカルチャー発信のまちとして発展していく。「発展と衰退」を脈々とくり返すまちの原動力は、裏通りで展開される小規模店舗とそれに集う人々である。この混沌とした営みを俯瞰しても、自分自身が入り込んでも、ほかにはない異次元ともいえるまちの魅力を十分に感じとれる。



本当の秋葉原は裏通りのさらに奥に入り込んだところにある。



八藤後 猛 教授(八藤後研究室)
専門 | 福祉社会と生活環境、事故予防と安全計画、建築人間工学

上野界隈に 点在する美術館・博物館

多くの美術館・博物館が集まる上野。東京藝術大学大学美術館には、吊るした鮭の絵で有名な高橋由一の絵画が収蔵されている。彼は、隧道や橋梁などを中心に“まち”の絵画を描いている。ちなみに、東京国立博物館にも「栗子山壁道」「酢川にかかる常盤橋」などが収蔵されている。今はもう見られない風景を絵画で堪能した後は、不忍池周辺を散策したり、上野精養軒でランチをしたり。明治の薫りを感じながら、東京の現在を堪能してはいかがだろうか。



2004年に廃止された「旧博物館動物園駅」が一般公開されている。館内には芸術作品も展示され、週末の公開日には大勢の来場者で賑わいをみせる。



西山孝樹 助教(天野・西山研究室)
専門 | 地域史、観光計画

まちの“ホッポ”スポット 「和田倉噴水公園」

この場所は、天皇陛下のご成婚で大噴水が建設され、その後、皇太子殿下のご成婚に合わせ各種水のモニュメントが追加整備されました。各水モニュメントには「息吹」「永遠」「予感」「希望」「再生」の意味がこめられ、水の流れと水の落ちる音、夏場であれば流れに伴う涼風など、五感に訴える都会のリラクゼーションスポットです。また、私みたいな流水マニアには、多くの水理学的現象が観察できるワクワクスポットです。



和田倉噴水公園(千代田区皇居外苑3-1)



後藤 浩 教授(沿岸域防災研究室)
専門 | 沿岸防災、海岸工学、河川工学

神田古本街とすずらん通りで 昔へワープ

私がお勧めするまちは、大学の近くにある神田神保町の本屋街とすずらん通りです。靖国通りの古本屋を1軒ずつのぞいて、古い和綴じの本や古地図、浮世絵などを見て昔の人間になったような気になります。次に裏のすずらん通りを歩いて和菓子屋さんで最中などを買おうと良いでしょう。最後にすずらん通りと靖国通りの間の小路をのぞいてみると、そこにはレトロな喫茶店があります。ここに入れば昭和の時代をきっと味わえるでしょう。



古本屋街の裏通りにはレトロな喫茶店が静かに佇んでいる。



青木和夫 特任教授(青木研究室)
専門 | 人間工学、健康工学

2018年8月16日から9月15日までの約1カ月、平成30年度短期B海外派遣研究員として南フランスに赴いた。今回は、南仏の観光の実態について簡単に報告したいと思う。

1. 観光資源としての社会基盤施設

フランスでの観光資源は、もちろん集合体としての街並みや教会、城などさまざまなものがある。しかし、いわゆる社会基盤施設も歴史的なものをはじめとしてさまざまなものが観光資源となっている。今回は古いものはローマの水道橋から、ミヨー橋まで見て回った。もっとパノラマで見える良いアングルで眺められる視点場もあるのだが、写真-1では世界遺産である水道橋を視対象として楽しむだけでなく、その眺めを楽しみながら川遊びができる。なんと贅沢ではないか。ミヨー橋も重要観光資源になっている。ミヨー橋そばのサービスエリアには写真-2のような展望台があり、とても土木の専門家とは思えない観光客も喜んで記念写真を撮っている。サービスエリア内には、ミヨー橋の工事から維持管理に至るまで関係する技術者の紹介も含めた展示も行われている。わが国の土木技術者も照れずにもっと事業や技術の紹介をすべきであると感じた。

2. 観光資源としての交通

交通も単に移動手段ではなく、重要な観光資源となっている。観光用の蒸気機関車や、市内を巡るミニトレインなど、もう読者諸氏のご存じのものもあるが、社会基盤施設とセットになった交通もある。写真-3はベジエ近郊の9段閘門という歴史的な社会基盤施設のそばにある、ミディ運河のクルーズである。9段閘門は現役で、フランス人がバカンスでミディ運河をクルーズする際に利用されており、生きている歴史的な社会基盤施設である。その9段閘門は通れないものの、ベジエからのミニトレインのオプショ



写真-1 ローマの水道橋



写真-2 ミヨー橋

ンとしてたった1時間ではあるがわずか千円少しで簡単な飲み物とつまみ付きのミディ運河クルーズを体験できる。前述の水道橋と同じで、歴史的観光資源を単なる視対象に終わらせないことが、観光の楽しませ方の多様性を感じる。

3. 観光資源としての宿泊と食

観光の重要な要素として、顎、足、枕という。足は交通手段であるが、何を食べるかという顎、どのようなところに宿泊するかという枕も重要な要素である。もちろん町中のホテルに宿泊し、町中のレストランで食事をとるという普通の形態も経験し、それはそれで、それなりのホテルを選択して観光客向けだけではないレストランを選択すれば十分に楽しめるわけであるが、今回はできるだけ「シャンプルドット」に滞在した。翻訳が難しいのだが、民宿という翻訳が最も良いかもしれない。新しい建築を使用しているものもあるが、城や館のような歴史的建築物を取得し内装を整え経営している場合も多い。夕食が付けられる場合は、経営者や同宿の人と会話をしながらの夕食も大きな楽しみである。写真-4はバラジュックという村の城を改造したシャンプルドットのアペリティフ（食前酒）パーティーである。ここは夕食を出さないのだが、いろいろな人と1時間以上お酒を楽しみ、十分に交流が楽しめる。次の朝はそこで知り合った人たちと、眺望の良いテラスで朝食を楽しめるわけである。

4. おわりに

調査と行っても、楽しんでいるだけだろうという陰口が聞こえるような気もするが、わが国と少し異なるさまざまな観光の楽しみ方があり、それを支えるハード、ソフトが用意され、訪問者もそれを楽しむ用意が調っている。これらの楽しみ方を日本用に翻訳し、わが国の観光をより豊かなものにしていかなければと痛感した次第である。



写真-3 ミディ運河のクルーズ



写真-4 アペリティフパーティー

本年度の進路決定状況（2019年3月15日現在）は表1の通りです。大学院修士課程まちづくり工学専攻第1期生の決定率は100%、学部生は96.3%、全体では96.6%であり、本年度も堅調に推移してきました。図1に就職先の業種別割合（進学含む）、表2に就職・進学先一覧に示します。官公庁、不動産、ゼネコン、建設コンサルタント・建築設計事務所、住宅で全体の3/4超を占める傾向は昨年度と同様です。

業種別では、官公庁への就職者が34人（30%）と最も多く、そのうち都県・政令指定都市への就職者が約半数といった傾向も昨年と同様です。民間企業では、不動産16人（14%）、ゼネコン9人（8%）、建設コンサルタント・建築設計事務所10人（9%）、住宅17人（15%）、運輸3人（3%）、インフラ整備・管理、レジャー、建築設備、製造、通信といった幅広い業種へ就職が決定しました。本年度はゼネコンの割合が若干下がり、住宅メーカーと運輸業の割合が若干上が

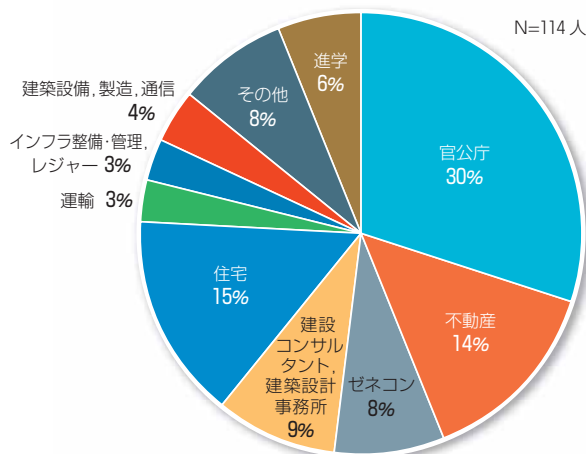


図1 業種別割合

りました。ゼネコンの開発部門とレジャーへは、本学科初めての就職者がありました。

表1 就職・進学状況（2019年3月15日現在）

	学部			大学院			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
修了・卒業見込者数	88人	29人	117人	4人	5人	9人	126人
就職・進学希望者数	81人	28人	109人	4人	5人	9人	118人
就職者数	73人	26人	99人	4人	4人	8人	107人
進学者数	4人	2人	6人	0人	1人	1人	7人
決定率※	95.1%	100%	96.3%	100%	100%	100%	96.6%

※決定率＝(就職者数＋進学者数)／就職・進学希望者数

表2 就職・進学先一覧

業種	企業・団体名([]内は人数)	人数
官公庁	東京都庁[3], 茨城県庁[1], 埼玉県庁[1], 千葉県庁[3], さいたま市役所[2], 川崎市役所[4], 横浜市役所[2], 小田原市役所[1], 宇都宮市役所[1], 柏市役所[1], 川口市役所[1], 流山市役所[1], 多摩市役所[1], 八王子市役所[1], 藤沢市役所[1], 船橋市役所[1], 板橋区役所[1], 大田区役所[1], 葛飾区役所[1], 品川区役所[1], 渋谷区役所[1], 杉並区役所[1], 中野区役所[1], 目黒区役所[1], 阿見町役場[1]	34人
不動産	(株)大京[2], (株)S-FIT[1], エヌ・ティ・ティ都市開発サービス(株)[1], (株)小田急ビルサービス[1], (株)ザイマックスアルファ[1], (株)ジョイント・コーポレーション[1], (株)大京アステージ[1], 大成有楽不動産(株)[1], (株)東急コミュニティー[4], (株)デーオーシー[1], 野村不動産パートナーズ(株)[1], (株)フォージャースホールディングス[1]	16人
ゼネコン	(株)大林組[1], 鹿島建設(株)[1], (株)NB建設[1], (株)熊谷組[1], 京王建設(株)[1], 五洋建設(株)[1], 東鉄工業(株)[1], 飛島建設(株)[1], (株)テクノプロ[1]	9人
建設コンサルタント 建築設計事務所	日本工営(株)[2], (株)オリエンタルコンサルタンツ[1], 昭和(株)[1], 玉野総合コンサルタント(株)[1], (株)千代田コンサルタント[1], 日本都市技術(株)[1], 日本振興(株)[1], (株)ヌルハウス[1], (株)プランニングネットワーク[1]	10人
住宅	大和ハウス工業(株)[2], 積水ハウス(株)[2], (株)一条工務店[1], (株)アキュラホーム[1], 茨城セキスイハイム(株)[1], (株)OKUTA[1], 兼六土地建物(株)[1], 住友林業ホームテック(株)[1], (株)サンプロ[1], 大東建託(株)[1], 大和リース(株)[1], 東京セキスイハイム(株)[1], 日本住宅(株)[1], 一建設(株)[1], (株)三栄建築設計[1]	17人
運輸	東海旅客鉄道(株)[1], 東武鉄道(株)[1], 東日本旅客鉄道(株)[1]	3人
インフラ整備・管理 レジャー	東電タウンプランニング(株)[1], (公社)神奈川県下水道公社[1], 旭テック(株)[1], (株)オリエンタルランド[1]	4人
建築設備、製造、通信	(株)大気社[1], YKK AP(株)[1], (株)コトブキ[1], (株)ドコモCS[1], (株)風憩セコロ[1]	5人
その他	(株)アールキューブ[1], (社)印旛福祉会[1], (株)小泉[1], (株)スタジオアリス[1], 住友生命保険[1], (株)セブソーイレブン・ジャパン[1], TBCグループ(株)[1], (株)ポストスケイプ[1] 他	9人
進学	日本大学大学院理工学研究科まちづくり工学専攻[5], 首都大学東京大学院[1] 他	7人

平成30年度 まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

植田瑞昌・八藤後猛：重度障害児の排泄実態と排泄環境整備，日本建築学会計画系論文集，Vol.83，No.750，pp.1447-1457，2018.

上田萌子・大平和弘・浦出俊和・押田佳子・上南木昭春：鹿児島県指宿市有形民俗文化財に指定されたモイソンの保全に関する現状と課題，ランドスケープ研究，Vol.81，No.5，pp.565-570，2018.

押田佳子・松尾あすさ・浦出俊和・上田萌子・大平和弘・上南木昭春：奄美大島におけるノロ祭祀空間の継承状況に関する研究，ランドスケープ研究，Vol.81，No.5，pp.571-576，2018.

小川曾裕・山崎晋：ブルーノ・タウトによるブリッツ連棟住宅の屋外居住空間の設計意図に対する居住者意識，日本造園学会ランドスケープ研究，Vol.81，No.5，pp.669-674，2018.

落合正行・岡田智秀：住民自治組織が自主運営を行う活動拠点施設の不動産支援のあり方に関する研究，日本大工部理工学部理工学研究所ジャーナル，No.141，pp.1-8，2018.

西山孝樹・天野光一：フランスの温泉療養制度と「温泉リゾート地」に関する基礎的研究，日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル，Vol.142，pp.1-10，2018.

稲葉諒介・岡田智秀・横内憲久：都市部のウォーターフロントにおける飲食店の夜景成立要件に関する研究—「東京夜景」に着目して—，土木学会論文集 D1（景観デザイン），Vol.74，No.1，pp.29-38，2018.

後藤浩・依田光正・城内博・竹澤三雄：水面からの光の乱反射による人の視覚系への影響を考慮した水辺空間デザインの考察，土木学会論文集 B1（水工学），Vol.74，No.2，pp.11-22，2018.

田島洋輔・松嶋健太：積雪寒冷地におけるゼロエミッション型エネルギー地産地消モデルの構築—北海道十勝地域の酪農農場を対象として—，環境情報科学，Vol.47，No.33，pp.80-89，2018.

仲村成貴・小山雄太・坂井航介：東日本大震災における主体的な津波避難者の事前準備と避難行動，第15回日本地震工学シンポジウム論文集，pp.2910-2917，2018.

押田佳子・安齊航也・久島琴音：わが国における「観光危機管理」の現状と課題—都道府県レベルにおける地域防災計画及び観光客対応マニュアルに着目して—，都市計画報告集，No.17，pp.339-342，日本都市計画学会，2018.

田中伸彦・海津ゆりえ・押田佳子・川合康史・一ノ瀬友博・九里徳泰・伊藤渚生：海岸観光地における津波被害に対する自治体施策—神奈川県相模湾沿岸地域の6市町を対象として—，都市計画報告集，No.17，pp.348-354，日本都市計画学会，2018.

後藤浩：平成27年9月関東・東北豪雨による浸水家屋の被災に関する数値解析的検討，日本建築学会技術報告集，Vol.25，No.59，pp.521-525，2019.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の道路行政政策に関する研究，土木学会論文集 D2（土木史），pp.13-31，Vol.75，No.1，2019.

山崎晋・水村容子：セーフコミュニティの視点からみる安全・安心まちづくり活動への参加状況と自助・共助・公助への意向—秩父市におけるセーフコミュニティ認証前と認証後の住民意識の比較・考察—，日本建築学会計画系論文集，Vol.84，No.755，pp.53-63，2019.

宗永芳・中田善久・田嶋和樹・大塚秀三・宮田敦典・荒巻卓見・鈴木大：在来型枠工法におけるスラブ下および梁下の支保工の存置方法に関するアンケート調査，日本

建築学会技術報告集，Vol.25，No.59，pp.23-28，2019.

Kimihiro Hino, Yasushi Tanaka and Richard H. Schneider: Characteristics of fear of crime in evacuation shelters after the Great East Japan Earthquake, Environmental Hazards, pp.456-469, 2018.

Hiroshi Gotoh, Mitsumasa Yoda, Hiroshi Jonai and Mitsuo Takezawa: Investigation on designing of public space considering diffuse reflected light from water surfaces, ISEAS (International Symposium on Engineering and Applied Science 2018), ISEAS-0111, 2018.

Makiko WATANABE, Kouichi AMANO and Takaki NISHIYAMA: Fundamental Study on Intermediate Areas in Street Space, 2018 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies Proceeding, pp.194-195, 2018.

学会からの依頼

押田佳子：持続可能な観光地に向けた循環型まちづくり—高尾山観光におけるオーバーユースの実態より—，環境共生，日本環境共生学会，pp.44-49，2018.

口頭発表（審査なし）

森紗耶・岡田智秀・田島洋輔・落合正行：都市空間における街区内細街路の景観演出に関する研究，土木学会第45回関東支部技術研究発表会，2018.3.7-8.

水石知佳・岡田智秀・田島洋輔：東京港における海上景観の魅力形成に関する研究—航行速度からみた海上景観の観賞形態について—，土木学会第45回関東支部技術研究発表会，2018.3.7-8.

小山雄太・坂井航介・仲村成貴：東日本大震災における主体的な避難者の行動特性把握，土木学会第45回関東支部技術研究発表会，2018.3.7-8.

鈴木一功・仲村成貴・関文夫：実測記録と数値モデルに基づくバランスド扁平アーチ橋の振動特性把握—埋め戻し地盤の剛性と橋梁の振動特性変化—，土木学会第45回関東支部技術研究発表会，2018.3.7-8.

高橋佑奈・仲村成貴：浸水想定区域と公共建築物の立地状況に基づいたハザードマップ利活用の現状調査，土木学会第45回関東支部技術研究発表会，2018.3.7-8.

白幡隼之介・宮下拓大・仲村成貴：被災地周辺の観光地における宿泊客数の変動，土木学会第45回関東支部技術研究発表会，2018.3.7-8.

鈴木和也・仲村成貴：関東地方6県の基礎自治体における災害時応援協定の現状把握，土木学会第45回関東支部技術研究発表会，2018.3.7-8.

湯浅昇・荒巻卓見・青木孝義・ブンツォ・ワングモ：セメントの添加による版築の強度向上に関する検討，一般社団法人セメント協会第72回セメント技術大会，2018.5.8-10.

岡田智秀・田島洋輔・落合正行：ウォーターフロント再生に向けたキーノート，土木学会第58回土木計画学研究発表会・春大会，2018.6.9-10.

田島洋輔・岡田智秀・落合正行：都内水上交通の発展に資する船着場の魅力形成に関する研究—水都大阪水の回廊エリアを対象として—，土木学会第58回土木計画学研究発表会・春大会，2018.6.9-10.

田中賢・村井裕樹：発達障害児とグレーゾーン児童と健常児の安全基礎体力の差異について，日本福祉のまちづくり学会全国大会（関西），2018.8.9-10.

飯村壮一郎・依田光正・田中賢：建設作業現場での職種の違いによる心身の負荷に関する基礎的研究—安全・安心な労働環境を目指して—，日本福祉のまちづくり学会

第21回全国大会（関西），2018.8.9-10.

田中賢：東京都で発生したコンビニ強盗に関する基礎的研究，日本福祉のまちづくり学会第21回全国大会（関西），2018.8.9-10.

石田彩乃・阿部貴弘：ツアー参加者から見たインフラツーリズムの魅力に関する研究—土木遺産ウォーキングツアーに着目して—，土木学会第39回土木史研究発表会，2018.6.16-17.

阿部貴弘・松下直道：近世城下町岩国の錦見地区における城下町設計の論理，土木学会第39回土木史研究発表会，2018.6.16-17.

土井祥子・大沢昌玄・木村優介・阿部貴弘：戦後都市施設の歴史・文化的価値の評価基準に関する検討（その3）—戦後街路の評価と1次調査リストの作成—，土木学会第39回土木史研究発表会，2018.6.16-17.

本田泰寛・阿部貴弘・北河次郎：平成28年熊本地震による歴史的土木構造物の被災状況に関する調査報告（その2），土木学会第39回土木史研究発表会，2018.6.16-17.

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：『江戸名所図会』にみる街路の中間領域に関する基礎的研究，土木学会第38回土木史研究発表会，2018.6.16-17.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：江戸時代前中期における『徳川実紀』にみる幕府の道路行政政策，土木学会第38回土木史研究発表会，2018.6.16-17.

渡辺万紀子：平成30年度土木学会全国大会広報関連企画「ベスト・イノベーター・オブ・土木偉人（発表偉人：田辺朗郎）」，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29.

後藤浩・竹澤三雄：東京都沿岸の防潮堤天端高と波峰位に関する考察，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

小山雄太・坂井航介・仲村成貴：東日本大震災における主体的な避難者の特徴抽出，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

三上卓・田中努・仲村成貴：地震時における複数建物の被災度即時判定システムの開発，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

西山孝樹・谷口里咲・天野光一：トランジットツアーに関する基礎的研究—世界の28空港を対象として—，土木学会全国大会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

田島洋輔・岡田智秀・落合正行・塩谷真由・天海拓生：千葉県流山市における今上落の歴史の変遷と活用方策に関する研究—千葉県流山市本町地区および今上落の歴史の変遷について—，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

池岡直哉・中山和弥・門田徹・瀬尾高宏・仲村成貴：既設構造を活用した鋼床版拡幅構造の力学的特性，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

高橋佑奈・仲村成貴：ハザードマップ利活用の現状把握—千葉県における浸水想定区域と公共建築物の立地状況に着目して—，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

水石知佳・岡田智秀・田島洋輔：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究—雨天時における海上景観特性について—，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

新橋一士・岡田智秀・田島洋輔：神社に接続する道空間を対象としたまちづくりに関する研究—朱引内に立地する「横道型」の寺社にみる「寺社情緒」の空間的波及状況—，土木学会第73回年次学術講演会，2018.8.29-31.

田中賢・吉田裕亮：洋式便器の利用実態に関する基礎的

研究，日本建築学会全国大会(東北)，2018.9.4-6.

落合正行・杉本将平：いけのうえのスタンダー都市部住宅地グランドレベルでの小さな活動一，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

永井公基・岡田智秀・落合正行：住民自治組織が自主運営する活動拠点施設の不動産支援に関する研究―神奈川県川崎市を对象として一，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

押田住子・兼井美咲：東京都中央区における狭小神社の存続性に関する研究，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

加藤有紗・押田住子：ツーリズムを用いたモダニズム建築の保存・活用のあり方に関する研究，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

隅田和輝・押田住子・落合正行：都市部における住民自治組織とマンション住民の関わりに関する研究―神奈川県川崎市川崎区を対象にして一，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

植田瑞昌・八藤後猛：〈選抜梗概〉重度障害児の排泄実態と排泄環境に関する問題点，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

牟田聡子・八藤後猛：妊娠期の身体変化と住宅内外で発生する事故の関連―妊娠期から育児期における環境整備に関する基礎研究―その4，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

松保諒・湯浅昇・菰田夏樹・荒巻卓見：センサRFIDを用いたコンクリート内部の無線センシング技術の検討(その1 センサRFID 構成概要と試験方法)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

菰田夏樹・湯浅昇・松保諒・荒巻卓見：センサRFIDを用いたコンクリート内部の無線センシング技術の検討(その2 センサ測定性能及び通信性能の評価)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

荒巻卓見・湯浅昇・青木孝義：煉瓦の焼成温度と強度・非破壊試験値との関係，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

鈴木大・中田善久・田嶋和樹・大塚秀三・宮田敦典・荒巻卓見・宗永芳・藤下大知：支柱の一部残存三層受け工法における構造計算方法および依頼物件に関する実態調査(その1 回答社の概要および構造計算の概要)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

宗永芳・中田善久・田嶋和樹・大塚秀三・宮田敦典・荒巻卓見・鈴木大・藤下大知：支柱の一部残存三層受け工法における構造計算方法および依頼物件に関する実態調査(その2 構造計算の対象部位および所要圧縮強度の設定)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

藤下大知・中田善久・田嶋和樹・大塚秀三・宮田敦典・荒巻卓見・宗永芳・鈴木大：支柱の一部残存三層受け工法における構造計算方法および依頼物件に関する実態調査(その3 依頼物件の概要)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

宮田敦典・藤下大知・中田善久・田嶋和樹・大塚秀三・荒巻卓見・宗永芳・鈴木大・藤下大知：支柱の一部残存三層受け工法における構造計算方法および依頼物件に関する実態調査(その4 依頼物件の構造および規模)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

青木孝義・宮本慎宏・K. C. Shrestha・湯浅昇・高橋典之・張景耀・荒巻卓見：ブータンにおける組積造建築の耐震化技術に関する研究(その1 プロジェクトの概要と伝統的版築造住宅のモニタリング)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

湯浅昇・青木孝義・荒巻卓見・宮本慎宏・K. C. Shrestha・高橋典之・張景耀・Phuntsho Wangmo：ブータンにおける組積造建築の耐震化技術に関する研究(その2 版築の材料強度の検討)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

Phuntsho Wangmo, Takayoshi Aoki, Kshitij C. Shrestha, Mitsuhiro Miyamoto, Takaaki Konishi, Takumi Aramaki, Jingyao Zhang, Noriyuki Takahashi, Noboru Yuasa, Hidenori Aoki：Study on earthquake resistance technology of composite masonry buildings in Bhutan (Part 3：Element tests on reduce-scaled rammed earth walls)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

小西孝明・宮本慎宏・青木孝義・K. C. Shrestha・湯浅昇・高橋典之・張景耀・荒巻卓見・Phuntsho Wangmo，青木秀敏：ブータンにおける組積造建築の耐震化技術に関する研究(その4 引き出し実験の概要と材料実験結果)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

Kshitij C. Shrestha, Takayoshi Aoki, Mitsuhiro Miyamoto, Jingyao Zhang, Takumi Aramaki, Phuntsho Wangmo, Takaaki Konishi, Noriyuki Takahashi, Noboru Yuasa, Hidenori Aoki：Study on earthquake resistance technology of composite masonry buildings in Bhutan (Part 5：Pull-down tests on real-scale rammed earth house：Test results and discussions)，2018年度日本建築学会大会(東北)，2018.9.4-6.

野口孝俊・阿部貴弘：東京湾要塞第二海堡跡におけるインフラヘリテージツーリズムの成立に関する実践的検討，土木学会第58回土木計画学研究発表会・秋大会，2018.11.23-25.

菊原綾乃・阿部貴弘：地下街の地上出入口の形成過程に関する研究―出入口のデザインに着目して一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

實方琢人・阿部貴弘：東京市公衆食堂の運営実態に関する基礎的研究，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

井上雄大・阿部貴弘：景観整備の質的向上に資するマネジメント手法に関する研究―景観まちづくり刷新支援事業に着目して一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

松崎翔矢・阿部貴弘：平成27年9月関東・東北豪雨被災地における居住形態に関する研究―自助による水害対策に着目して一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

新保貴浩・菊原綾乃・柳川星・野中美貴子・阿部貴弘：鉄道高架下の土地利用変遷に関する研究―近代に建設された市街線高架橋を事例として一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

小木曾裕・山崎晋：ブリッツ連棟住宅の緑の部屋の利用実態と居住者意識，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

青山大輝・小木曾裕・山崎晋：市街地再開発事業による近隣住民への影響に関する基礎的研究，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

浅原知幸・小木曾裕・山崎晋：豊島区リノベーションスクールで事業化した物件の運営実態に関する研究，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

岩崎真子・小木曾裕・山崎晋：多摩ニュータウンにおけるオールドタウン化対策の地域活動について，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

小國敬太・小木曾裕・山崎晋：都市再生特別地区における都市再生への貢献と規制緩和の規制緩和の実態および関係に関する研究―東京都の事例分析を通じて一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

亀田真輝・小木曾裕・山崎晋：美容室と人々の感じるお洒落な街との関係に関する研究，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

木村柚香・小木曾裕・山崎晋：市街地再開発事業におけるオープンスペースの変遷に関する基礎的研究～平成元年度以前の完了地区と平成元年度以降の完了地区を比較する～，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演

会，2018.12.5.

笹崎棕平・小木曾裕・山崎晋：白川村合掌造り家屋の建物配置と住み心地の基礎的研究，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

塩野侑也・小木曾裕・山崎晋：渋谷駅周辺における渋谷川の現状からみる都市開発と自然のあり方に関する研究，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

徳武知里・小木曾裕・山崎晋：郵便局建築物の外観と街並みに関する地域住民の意識に関する研究，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

西岡良輔・小木曾裕・山崎晋：千代田区秋葉原周辺における大規模災害時の帰宅困難者の対応についての考察，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

卡丹青・小木曾裕・山崎晋：中国の集合住宅における緑に対する居住者意識～中国・江蘇省常州市の団地陽湖名城・文淵居を事例として一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

國府田亮・小木曾裕・山崎晋：都心近郊における余剰地の土地利用に関する研究―農園と駐車場の分布の比較より一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

岩崎裕弥・牟田聡子・八藤後猛：児童の歩道橋利用における防犯の研究―歩道橋における不審者の行動特性一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

牟田聡子・山中新太郎・八藤後猛：妊娠期の身体変化と住宅内外で発生する事故の関連―妊娠期から育児期における環境整備に関する基礎研究一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

桑田貴一・八藤後猛・牟田聡子：コミュニティバスの勢力圏が高齢者の外出頻度に及ぼす影響に関する研究―コミュニティバス利用者の実態調査一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

伊藤聖・岡田智秀・森紗耶：都市空間における街区内細街路の景観特性に関する研究―東京都表参道地区の「行き止まり空間」の誘引性について一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

森紗耶・岡田智秀・今井仁美：都市空間における街区内細街路の景観特性に関する研究―(その4)フォトモンタージュ実験による街区内細街路の回遊行動促進要因について一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

松岡七海・岡田智秀・寺尾光優：都市型人工海浜を核としたまちづくりに関する研究―(その1)東京都大田区立「大森ふるさとの浜辺公園」を対象として一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

都倉菜月・岡田智秀・落合正行・永井公基・天海拓生：廃校における転用後の活用特性に関する研究―(その2)全国178事例における法制度からみた活用特性一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

永井公基・岡田智秀・落合正行・都倉菜月・天海拓生：廃校における転用後の活用特性に関する研究―(その2)全国178事例を対象とした校舎・校庭の機能特性一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

落合正行・岡田智秀・小林侑輝：わが国の港湾における「倉庫リノベーション」の成立要件に関する研究―(その1)「みなとオアシス」登録106港の実態把握一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

小林侑輝・岡田智秀・落合正行：わが国の港湾における「倉庫リノベーション」の成立要件に関する研究―(その2)「みなとオアシス」登録港の小名浜港・大分港に着目して一，平成30年度(第62回)日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

新橋一士・岡田智秀・落合正行：都市農地の計画的保全策に関する研究—法制度の変遷からみる都市農地タイプ—，平成30年度（第62回）日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

森田直樹，岡田智秀，落合正行：わが国の市街地における「倉庫リノベーション」の成立要件に関する研究—（その3）東京都江東区清澄白河地区周辺を対象として—，平成30年度（第62回）日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

栗本賢一・岡田智秀・落合正行：都市臨海部における企業立地および都市機能の有機的連関，相互連鎖に関する研究—既往研究の分析と研究の方向性の検討—，平成30年度（第62回）日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

田島洋輔・岡田智秀・柴田明：畜産系バイオガスプラント導入における地域への波及効果に関する研究（その2）北海道興部町の沿岸・段丘地型バイオガスプラントの事業経緯について，平成30年度（第62回）日大理工学術講演会，2018.12.5.

柴田明・岡田智秀・田島洋輔：畜産系バイオガスプラント導入における地域への波及効果に関する研究（その3）北海道別海町の沿岸・平野型バイオガスプラントの事業経緯と地域間比較，平成30年度（第62回）日大理工学術講演会，2018.12.5.

山口博・岡田智秀・田島洋輔・水石知佳：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究（その5）夜間における海上景観特性について，平成30年度（第62回）日大理工学術講演会，2018.12.5.

水石知佳・岡田智秀・田島洋輔・山口博：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究（その6）海上景観特性の昼夜間比較，平成30年度（第62回）日大理工学術講演会，2018.12.5.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔・勇崎大翔：ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究—マリン・タウン・プロジェクトを対象として—，平成30年度（第62回）日大理工学術講演会，2018.12.5.

小山美和子・岡田智秀・田島洋輔：事業者パンフレットにみる水上交通の運航航路と事業特性に関する研究，平成30年度（第62回）日大理工学術講演会，2018.12.5.

金森光人・押田佳子：地域鉄道開発にみる伊豆半島の観光発展プロセスに関する研究，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

上芝聖佳・押田佳子：近代の鉄道旅行案内書にみる中央線沿線の郊外観光発達史に関する研究，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

倉津耕大・押田佳子・片山風花：近代湘南メディカルツーリズム以降の由比ガ浜中央商店街の継承プロセスに関する研究，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

町田拓也・押田佳子・加藤有紗・石田健太：ツーリズムを用いた戦後モダニズム建築の保存・活用のあり方に関する研究—ツアープログラム改善にむけたエコツーリズムとの比較より—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

佐藤悠貴・押田佳子：人口減少地域における神社の保全プロセスに関する研究—新潟県佐渡市南東部に着目して—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

箱谷柊右也・押田佳子：銀座における狭小寺社の存続性に関する研究—銀座八丁神社めぐりに着目して—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

小池真琴・押田佳子：奄美市名瀬における都市整備が地域信仰に及ぼす影響に関する研究—大熊，有屋地区を対象として—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

鳥居奨次郎・押田佳子・宮本はるこ：緑のまちづくりにおける壁面緑化の在り方に関する研究—（その5）東京都港区における壁面緑化の認知度と景観評価に着

目して—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

小山佑也・押田佳子・東山将実：公園遊具設置状況にみる子どもの遊び場空間に関する研究—東京都港区を対象として—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

後藤浩・石川眞・竹澤三雄：人の移動等円滑化のための道路構造の変化に対応した雨水の排除機能に関する考察，第61回日本大学工学部学術研究報告会，2018.12.8.

柳川星・阿部貴弘：米国ワシントン州シアトル市旧日本人街における歴史的景観の保全・活用実態，土木学会第14回景観・デザイン研究発表会，2018.12.9

小本曾裕・山崎晋：ドイツのブリッツ連棟住宅における緑の部屋の設計意図と利用に関する研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

青山大輝・小本曾裕・山崎晋：市街地再開発事業による近隣住民への影響に関する研究—月島1丁目3，4，5番地区第1種市街地再開発事業を事例として—，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

浅原知幸・小本曾裕・山崎晋：豊島区リノベーションスクールで事業化した物件の運営実態に関する研究—シーナと—平を対象として—，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

阿部龍太郎・小本曾裕・山崎晋：台東区上野における風俗街の形成過程と現状—接待飲食等営業に焦点を当てて—，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

岩崎真子・小本曾裕・山崎晋：多摩ニュータウンにおける地域活動の居住者意識に関する研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

小國敬太・小本曾裕・山崎晋：都市再生特別地区における都市再生の貢献と規制緩和の実態と評価に関する基礎的研究—東京都の3事例分析を通じて—，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

加藤菜々子・小本曾裕・山崎晋：囲み型住棟配置の集合住宅における屋外空間の利用実態に関する研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

亀田真輝・小本曾裕・山崎晋：美容室と顧客の感じるお洒落な街との関係に関する研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

木村柚香・小本曾裕・山崎晋：市街地再開発事業におけるオープンスペースの変遷に関する研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

草原孝樹・小本曾裕・山崎晋：新浦安における居住者の防災意識、対策についての研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

笹崎峻平・小本曾裕・山崎晋：白川村合掌造り家屋の建物配置と住み心地の居住者意識，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

塩野佑也・小本曾裕・山崎晋：渋谷川周辺における渋谷川の現状からみる都市開発と自然のあり方に関する研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

徳武知里・小本曾裕・山崎晋：郵便局建築物の外観と街並みに関する地域住民意識，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

西岡良輔・小本曾裕・山崎晋：千代田区秋葉原周辺における大規模災害時の帰宅困難者の対応についての考察，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

林廉太郎・小本曾裕・山崎晋・小國敬太：沖縄県庁が久米島に行っている独自な政策に関する考察—福祉を事例として—，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

藤林寛也・小本曾裕・山崎晋：日本の温泉地における海外観光客の利用に関する意識について，平成30年度日本

造園学会関東支部大会，2018.12.15.

卞丹青・小本曾裕・山崎晋：中国の集合住宅における緑に対する居住者意識—中国・江蘇省常州市の団地陽湖名城・文淵居を事例として—，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

加藤有紗・押田佳子・町田拓也：近代建築遺産ツーリズムを用いた戦後モダニズム建築の保存・活用効果に関する研究，第33回日本観光研究学会全国大会，2018.12.16.

久島琴音・押田佳子：災害時の避難誘導意識に関する研究—鎌倉市大仏通り商店街と由比ガ浜中央商店街を対象として—，第33回日本観光研究学会全国大会，2018.12.16.

西山孝樹・金子正輝・田中賢・天野光一：トラنجジットツアーを利用した門前町の活性化に関する研究—成田山新勝寺周辺を対象として—，第33回日本観光研究学会全国大会，2018.12.16.

川村敦・田島洋輔・亀山孝之：利根川の魅力を育む会の活動報告—埼玉県羽生市における利根川体験活動（川下り）の取り組み—，平成30年度第19回自然環境復元学会全国大会，2019.2.15.

柴田明・岡田智秀・田島洋輔：畜産系バイオガスプラント導入に伴う地域への波及効果に関する研究—北海道道東3町における事業経緯と事業経済性に着目して—，平成30年度第19回自然環境復元学会全国大会，2019.2.15.

ポスター発表

山口侑汰・後藤浩・石川眞・竹澤三雄：移動等円滑化のために設置された歩道と車道との間の段差の大きさの妥当性に関する考察，平成30年度（第62回）日本大学理工学部学術講演会，2018.12.3.

小山佳佑・岡田智秀・新橋一士・竹内勇太：荒川区景観まちづくり塾の持続的活動に関する考察—10年間にわたる活動の変遷について—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

加藤凱久・押田佳子：明治神宮内苑造営時における土地造成プロセスに関する研究，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

片山風花・押田佳子・倉津耕大・佐藤悠貴・東山将実：江ノ島電鉄線沿線における線路側玄関住宅の変遷に関する研究—鎌倉市腰越を対象として—，平成30年度（第62回）理工学部学術講演会，2018.12.5.

元木日菜・仲村成貴・荒巻卓見：浸水想定区域内に位置する公共建築物の現状調査，平成30年度（第62回）日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

松原瑞希・仲村成貴・瀬尾高宏・荒巻卓見：静的載荷実験に基づく実大高架橋の力学特性把握，平成30年度（第62回）日本大学理工学部学術講演会，2018.12.5.

下村真央・小野田菜那・米倉晃哉・鎌田琢己・高田亜希・野々村路子・小本曾裕・山崎晋：軽井沢来訪者に対する星野エリアの必要性に関する意識調査，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

斎藤まなみ・林千尋・山中美幸・高江日菜乃・守直人・小本曾裕・山崎晋：観光客及び地元民が抱く軽井沢の魅力の実態，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

小島大祐・岩崎瑞生・小泉建人・鈴木一平・永盛真衣・西原大夢・小本曾裕・山崎晋：旧軽井沢銀座通りと周辺別荘地の関係性とその印象に関する来訪者意識の研究，平成30年度日本造園学会関東支部大会，2018.12.15.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

平成30年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー

10/3 水 理工・短大合同スポーツ大会 (船橋キャンパス)

「ソフトボール」 Bブロック優勝、「バスケットボール」 Bブロック優勝、「バレーボール」 3位



10/5 金 就職活動 (全般・民間企業・公務員) に関するガイダンス

場所：駿河台キャンパス・タワースコラ S401教室
出席者数：104名 (対象：修士1年+学部3年、122名)

10/6 土 7 日 お茶の水 アートピクニック'18



『建築デザイン演習』の第1課題「私のまち」で1年生が制作した“まち模型”を出展しました。

10/20 土 理工学部ホームカミングデー



場所：駿河台キャンパス・タワースコラ
「第1回理工学部校友会まちづくり部会 総会」と「懇親会」も併せて実施。1期生・2期生22名が出席し、盛大に開催されました。

10/27 土 大学院まちづくり工学専攻 第1回修士論文中間審査会

場所：駿河台キャンパス・タワースコラ S504教室
修士課程1年生の7名が発表しました。



11/3 土・祝 船橋キャンパスウォッチング

学科・入試相談会実施結果

来場者数：11組 (内訳：付属高校2組、その他の高校9組)

相談内容

- ・指定校推薦入試について：6組
- ・付属推薦入試について：2組
- ・一般入試について：1組
- ・AO入試について：2組

11/22 土 第41回日本大学理工学部学術賞表彰式 (学会・協会賞受賞者)

研究業績部門

阿部貴弘 (教授)：2017年度グッドデザイン賞、2017年度土木学会デザイン賞奨励賞

渡辺万紀子 (修士課程2年)：土木学会平成29年度全国大会第72回年次学術講演会優秀講演者賞

功労部門

青木和夫 (特任教授)：IEA Fellow (人間工学に関する国際的な活動と研究業績による貢献)

横内憲久 (名誉教授)：船橋市市制施行80周年記念特別功労表彰 (多年にわたり市制の発展に尽力した功績)



12/5 水 平成30年度第62回理工学部学術講演会 (駿河台キャンパス1号館)

今年も恒例の理工学部学術講演会が開催されました。後日、まちづくり工学科として以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。

口頭発表

森 紗耶：都市空間における街区内細街路の景観特性に関する研究—(その4) フォトモンタージュ実験による街区内細街路の回遊行動促進要因について—

新橋一士：都市農地の計画的保全策に関する研究—法制度の変遷からみる都市農地タイプ—

佐藤悠貴：人口減少地域における神社の保全プロセスに関する研究—新潟県佐渡市南東部に着目して—

小林侑輝：わが国の港湾における「倉庫リノベーション」の成立要件に関する研究—(その2) 「みなとオアシス」登録港の小名浜港・大分港に着目して—

小山佑也：公園遊具設置状況にみる子どもの遊び場空間に関する研究—東京都港区を対象として—

ポスター発表

山口侑汰：移動等円滑化のために設置された歩道と車道との間の段差の大きさの妥当性に関する考察



12/15 土 大学院まちづくり工学専攻 第2回修士論文中間審査会



場所：駿河台キャンパス・タワースコラ S504教室
修士課程2年生の8名が発表しました。

12/6 木 - 1/24 木 平成30年度 企業セミナー

場所：駿河台キャンパス・タワースコラ12階・13階まちづくり工学科フロア
12/6 (木) 4限 (144名)

鹿島建設、京浜急行電鉄、住軽日軽エンジニアリング、福山コンサルタント、新日鐵興和不動産

12/13 (木) 4限 (132名)・5限 (51名)

奥村組、大京グループ、大和ハウス工業、JR 東日本、佐藤工業、東鉄工業、東急不動産、日本住宅

12/18 (火) 4限 (35名)・5限 (18名)

オリエンタルコンサルタンツ、大林道路、熊谷組、住友林業ホームテック、石勝エクステリア、大成建設、玉野総合コンサルタント、中日本エクスス

12/20 (木) 4限 (57名)・5限 (32名)

アビリティーズ・ケアネット、京王建設、西武造園、中央コンサルタンツ、清水建設、五洋建設、リテックエンジニアリング、日本陶業

1/10 (木) 5 限 (46名)

清水建設、フジタ、UR リンテージ、よみうりランド

1/17 (木) 4 限 (16名)・5 限 (24名)

青木あすなろ建設、オリジナル設計、積水ハウス、東亜レジン、鹿島建物総合管理、パシフィックコンサルタンツ、コトブキ、ナビタイムジャパン、東電タウンプランニング、都市再生機構

1/24 (木) 4 限 (52名)・5 限 (22名)

日本振興、千代田コンサルタント、飛鳥建設、横浜市住宅供給公社、国際航業、ホクト・エンジニアリング、三協フロンテア、UR コミュニティ、大日本コンサルタント、三井ホーム

※括弧内は、延べ参加人数

1/12 (土) 平成30年度測量実習センター 研究交流会

場所：船橋キャンパス測量実習センター

後藤教授、仲村教授、西山助教、渡辺さん(修士課程2年)が発表しました。

2/6 (水) 宅建士・技術士 一次試験合格者祝賀会

場所：駿河台キャンパス・タワースコラ13階製図室
本年度の宅建士合格者数は16名(累積39名)、技術士一次試験合格者は20名(累積55名)という結果でした。教員15名と合格者12名が出席して祝賀会を開催しました。



2/20 (水) 卒業研究審査会

Aグループ担当教員：後藤・山崎・西山・城内・荒巻

Bグループ担当教員：八藤後・阿部・依田・落合

Cグループ担当教員：岡田・小木曾・田中・青木・牟田

Dグループ担当教員：天野・高村・仲村・押田・田島

3/15 (月) 修了・卒業発表

本年度の卒業生数は117名(9月卒業2名を含む)です。

平成30年度 まちづくり工学科各賞受賞者

最優秀発表賞

■久島琴音 観光地の事業者における観光危機管理のあり方に関する研究—鎌倉駅周辺商店街及び交通系事業者に着目して—

優秀発表賞

■森田直樹 わが国の市街地における遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」構築に関する研究—東京都江東区清澄白河地区周辺を対象として—

■樋口伊吹 ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究—ポータルネッサンス21とマリナタウンプロジェクトに着目して—

■元木日菜 浸水および強地震動想定区域と公共建築物の立地状況を示す指標の提案

■町田拓也 東京都におけるニューツーリズムの実態に関する基礎的研究

■丸山拓未 人口密集地区を流れる河川の堤防の決壊に対する安全性照査

■吉川 剛 子ども食堂の実態と運営形態の研究

■岩崎裕弥 歩道橋の通学路利用における安全性の研究

最優秀修士論文賞

■森 紗耶 都市空間における街区内部細路の回遊行動を促す景観特性に関する研究—東京都表参道地区をケーススタディとして—

桜まち卒業論文賞

■加藤大幹 外国人形成における街への影響についての研究—エスニックタウン 新大久保—

■都倉菜月 廃校における転用後の活用特性に関する研究—全国178事例における法制度からみた活用特性—

■佐藤悠貴 佐渡島南東部における神社継承の在り方に関する研究—佐渡能との関係性に着目して—

■木村柚香 市街地再開発事業におけるオープンスペースの変遷に関する研究

■松原瑞希 静的載荷試験と数値解析に基づく実大高架橋の力学特性把握

■山口健斗 被災地の共助・共同の営みによる地域社会の再生に関する基礎的研究

■松岡七海 都市型人工海浜を核としたまちづくりに関する研究—東京都大田区立「大森ふるさとの浜辺公園」を対象として—

■小林侑輝 わが国の港湾における「倉庫リノベーション」の成立要件に関する研究—大分県西大分港の機能転換プロセス—

桜まち修士論文賞

■渡辺万紀子 街路における中間領域の形成要因に関する研究

◆ お知らせ

まちづくり工学科 第3回海外研修旅行 ヨーロッパのまちづくりを 堪能する(ドイツ・スイス・フランス)

2019年8月28日(水)～9月11日(水) 13泊15日

同行教員：小木曾 裕 教授



教室主任退任挨拶 八藤後 猛 教授

2018年9月末をもちまして、2期4年間務めたまちづくり工学科学科主任を退任することになりました。第1期生を受け入れた学科設立の2013年4月には、横内憲久先生(現：日本大学名誉教授)が初代の主任を務められ、その後を私が引き継ぎました。横内憲久先生は天野光一先生らと従来の土木や建築といった分野にとらわれない、人の暮らしの基盤であるまちを総合的に科学する「まちづくり学」の必要を説き、学科設立に尽力されました。

私はそうした学科設立から1年半経過後、充実期を迎える時期に学科の責任者としての自覚をもって取り組んだと思っています。みなさんご存じのように、この間わが国や世界では少子・高齢化、多発する自然災害への対応、エネルギー転換といった大きな節目を迎えていました。こうした課題を背負いつつも、これからの日本を

どう質的に向上すべきなのか、それに呼応するかのように、まちづくり工学科ではその時代にふさわしい教育について先生方が一丸となって話し合い、いまま走りながら考え、実践しています。この変化への対応の素早さは、新しい学科である故の大きな利点だったと思います。

激動ともいえるこの4年間、先生方も、そしてこれからのまちづくりを自分たちが担うという在学生の情熱も遺憾なく発揮され、卒業生を送り出し各種業界から高い評価を得られました。受験生も順調に増加し、私たちが更なる学科の発展が期待できる状態で次期主任に引き継ぐことができたことはこのうえもない喜びです。私も、新しい主任の下でこれからもまちづくり工学科のみんなのために引き続き尽力していきたいと思っています。

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

【受賞】

■ 助手 落合正行

公益財団法人日本デザイン振興会「グッドデザイン賞2018（グッドデザイン・ベスト100）」

対象：「上池台の住宅 いけのうえのスタンド」

受賞年月日：2018年10月31日



■ 助手 田島洋輔

公益社団法人土木学会「平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会優秀講演者賞」

対象：千葉県流山市における今上落の歴史の変遷と活用方策に関する研究—千葉県流山市本町地区および今上落の歴史の変遷について—

執筆：田島洋輔、岡田智秀、落合正行

受賞年月日：平成30年11月12日



■ 修士課程1年 新橋一士

公益社団法人土木学会「平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会優秀講演者賞」

対象：寺社に接続する道空間を対象としたまちづくりに関する研究—朱引内に立地する「横道型」の寺社にみる「寺社情緒」の空間的波及状況—

執筆：新橋一士、岡田智秀、田島洋輔

受賞年月日：2018年11月12日

■ 修士課程2年 水石知佳

公益社団法人土木学会「平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会優秀講演者賞」

対象：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究—雨天時における海上景観特性について—

執筆：水石知佳、岡田智秀、田島洋輔

受賞年月日：2018年11月12日

■ 4年 小國敬太、教授 小本 裕、助教 山崎 晋
公益社団法人日本造園学会関東支部「優秀研究発表賞（口頭発表部門）」

対象：都市再生特別区における都市再生の貢献と規制緩和の実態と評価に関する基礎的研究—東京都の3事例分析を通じて—

受賞年月日：2018年12月15日



■ 3年 下村真央、小野田菜那、米倉滉凱、鎌田琢己、高田亜希、野々村路子、教授 小本 裕、助教 山崎 晋
公益社団法人日本造園学会関東支部「奨励賞（ポスター発表部門）」

対象：軽井沢来訪者に対する星野エリアの必要性に関する意識調査

受賞年月日：2018年12月15日



■ 高橋佑奈（2018年3月卒業 株式会社オリエンタルコンサルティング）

公益社団法人土木学会「平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会優秀講演者賞」

対象：ハザードマップ利活用の現状把握—千葉県における浸水想定区域と公共建築物の立地状況に着目して—

執筆：高橋佑奈、仲村成貴

受賞年月日：2018年11月12日

【講演等】

■ 教授 岡田智秀

景観まちづくりワークショップ「下町の風情をいかして防災を図る防災景観について」（講師）

主催：荒川区・荒川区景観まちづくり塾

開催年月日：2018年10月6日

戸田市住民がつくるおしゃれなまち研究会「水辺の景観まちづくりと戸田市流おしゃれの水辺舞台づくり」（講師）

主催：日本都市センター

開催年月日：2018年10月24日

景観シンポジウム「身近な暮らしの中で育む景観まちづくり」

主催：栃木県

開催年月日：2018年10月31日

「富士山世界文化遺産に係る三保海岸と静岡沿岸の景観保全と防災対策～その後。～」

主催：日本大学静岡県工科会

開催年月日：2019年1月26日

景観シンポジウム「アナタは何しに流山へ!? ～教えて!! あなたが感じる流山の魅力～」(パネラー)

主催：流山市

開催年月日：2019年2月23日

■ 教授 後藤 浩

「医療機関等の災害弱者施設における水災害への減災対策の二、三の提案」

開催場所：「震災対策技術展」横浜（パシフィコ横浜）

開催年月日：2019年2月8日

【展覧会】

■ 助手 落合正行

公益財団法人日本デザイン振興会「GOOD DESIGN EXHIBITION 2018」

作品「上池台の住宅 いけのうえのスタンド」

展示場所：東京ミッドタウン

展示期間：2018年10月31日～11月4日

【テレビ番組（考証）】

■ 教授 阿部貴弘

NHK 総合 正月時代劇「家康、江戸を建てる 前編～水を制す～」(江戸まちづくり考証)

放送日：2019年1月2日

【テレビ番組（出演）】

■ 教授 小本 裕、助教 山崎 晋、4年 阿部龍太郎、青山大輝、小國敬太、加藤菜々子、亀田真輝、笹崎諒平、塩野佑也、林 廉太郎、藤林寛也、3年 小泉健人、鈴木一平、齋藤まなみ

TAMA CABLE NETWORK スタジオ21 TODAY「福生駅富士見通り 日大生が提案」

放送日：2018年11月2日



【書籍】

■ 教授 阿部貴弘

記事「土地造成と測量」「近世街路と生活インフラの形成」

掲載書：『日本都市史・建築史事典』（丸善出版）

発行年月日：2018年11月21日

■ 特任教授 城内 博（ほか4名）

『GHS 分類演習—GHS 分類ができる人材育成へ—』（化学工業日報社）

発行年月日：2019年1月22日

【雑誌】

■ 教授 阿部貴弘

記事「見て歩き土木遺産 神田上水周辺を歩く」

執筆：阿部貴弘、江口真由、大野みさ子、工藤隼人、久保大樹、小池礼鴻、篠原 涼、寺田 希

掲載誌：『月刊 土木技術』（理工図書）

発行年月日：2018年10月

記事「見て歩き土木遺産 日本橋界隈を歩く」

掲載誌：『月刊 土木技術』（理工図書）

発行年月日：2019年2月

■ 教授 小本 裕

記事「区画整理事業のまちづくりにおける緑の再生・創出と維持管理—豊田地区区画整理事業内の樹林を事例として—」（基調論文）

掲載誌：『区画整理士会報』（一般社団法人全日本地区画整理士会）

発行年月日：2018年9月

■ 客員教授 廻 洋子

記事「海峡で読み解く世界と日本の歴史」

執筆：宮崎正勝、昆 正明、廻 洋子

掲載書：『運輸と経済』（一般財団法人交通経済研究所）

発行年月日：2018年10月

■ 准教授 押田佳子

記事「鎌倉における大樹の継承より捉えた観光まちづくり」

掲載誌：『グリーンエージ』

（一般財団法人日本緑化センター）

発行年月日：2018年10月